

## 兵庫県におけるサツマゴキブリの記録と堅果食

大塩 拓美<sup>1)</sup>

サツマゴキブリ *Opisthopteria orientalis* (Burmeister) は最大で 35mm 程度になる中型のゴキブリである。国内では九州・四国・沖縄・八重山に分布するとされているが(朝比奈, 1991), 和歌山・静岡・千葉では移入種として記録されている(国立研究開発法人 国立環境研究所, 2016)。本種の野外での食性に関する報告はほとんど無い。筆者はこれまで報告の無かった兵庫県内での本種の生息を確認し, 本種の堅果食とそれと関連する興味深い事例を報告する。

### 兵庫県下での記録

兵庫県神戸市の六甲アイランドに本種が生息しているという情報をもとに, 2013年6月7日に数時間で多くの個体を発見することができた。その後, 2014年と2015年にも, それぞれ春から秋にかけての数回, 六甲アイランドで幼虫を含む多くの個体を確認した。本種が移入したとすると, 既に定着している可能性が高い。本種は夜行性で昼間は石垣や樹木の隙間に潜み, 日が落ちると落ち葉や鳥の糞などを摂食している行動が観察された。

六甲アイランド内では, ごく一部の石垣の隙間とその周辺のみで見つかっており, 近くに植栽されているソテツやヤシなどの樹木について侵入した可能性がある。



図1 アラカシ堅果の割れ目に頭部を入れたサツマゴキブリ♀。兵庫県神戸市六甲アイランド 16. V. 2015

### 堅果食

2015年5月16日の雨上がりの昼間, 筆者が公園内を歩いていると, 乾燥して割れたアラカシの堅果の果皮の隙間から内部を食べている本種♀を発見した(図1)。六甲アイランドは人工島であるが, 島内の公園にはアラカシなどの樹木が植栽されており, 園道脇にはブナ科植物の堅果が多く落ちている。

観察していると, 果皮の割れ目に頭部と胸部の間が挟まり抜けなくなっていることがわかった(図2)。おそらく, 割れた果皮の隙間に頭部を入れ内部を摂食していた時に雨が降り, 果皮が水分を含んで膨らんだために隙間が閉じ, 頭部を引き抜くことができなかったのだろう。本個体をそのまま持ち帰り, 直径10cm, 高さ5cmのプラスチックカップに5cm四方に切った鉢底網と水で湿らせたティッシュペーパーを入れて多湿な状態で飼育したところ, 4日間生存したが, 5日目に自ら頭部を引きちぎって死亡していた。遺体をすぐに乾燥し標本作製した(図3)。

堅果を乾燥させると, 予想通り果皮の割れ目が開き, 取り残された頭部を取り出すことができた。また堅果内



図2 堅果から頭部が抜けられないサツマゴキブリ。

<sup>1)</sup> Takumi OOSHIO 神戸大学大学院 昆虫多様性生態学研究室



図3 頭部の千切れたサツマゴキブリの乾燥標本.



図4 サツマゴキブリが摂食したアラカシ堅果内部.

部を観察すると、内部の大半を占める子葉の多くが食べられていることがわかった(図4)。堅果内の子葉は栄養に富み、多くの動物が利用することが知られており(橋本ら, 1997; 浅利ら, 2008), 野外に住むゴキブリにとっても、割れた堅果は重要な栄養源であると考えられる。

末筆ながら本稿を校正していただいた杉浦真治准教授(神戸大学)にお礼申し上げます。

#### 参考文献

- 朝比奈正二郎, 1991. 日本産ゴキブリ類, 中山書店
- 浅利裕伸・山口裕司・柳川久, 2008. 野外観察によって確認されたエゾモモンガの採食物. 森林野生動物研究会誌 33 7-11.
- 橋本幸彦, 高槻成紀, 1997. ツキノワグマの食性: 総説. 哺乳類科学 37(1):1-19.
- 国立研究開発法人 国立環境研究所, 2016. 侵入生物データベース. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60490.html>(2016年2月18日閲覧)